

浄土真宗東本願寺派野中山正山寺

ほつ寺通信

※皆さんでご覧ください。

第25号

令和3年7月1日
＜発行責任者＞正
(住職) 藤野慶正

盂蘭盆会中止

例年8月の第一日曜日に行っております盂蘭盆会法要ですが、昨年同様に現在のコロナ禍の状況を考慮し、中止することになりました。(世話人会での決定)

11月14日予定の報恩講に関しては、今夏の状況を見て、役員相談の上、開催有無の判断をしたいと思っております。(昨年同様、世話人様のみ参加頂くことになった場合は、ご了承下さい。)

世話人様付きの檀家様におかれましては、今年度の維持費・管理費の集金は、その判断を待ってから(9月以降)となりますので、ご承知おきください。

住職の仏々

皆さん、毎度この他愛もないコラムをお読み頂きありがとうございます

います。それほど深い思いはなく、その時浮かんだことをブツブツとつぶやかせて頂いております。

つぶやきと言えば、SNSのツイッターが思い浮かびますが、皆さんやられていますか？私は流石に不特定多数の方々につぶやくほどのネタを持ち合わせておりませんので、やっていません。まあ、やられている方は、もつと気軽な気持ちで共感を求めてやられているようにも思えます。ただ怖いのは、実名投稿ではないことから深く考えずに誹謗中傷や憶測でのつぶやき、そして真実かどうか確認せずに皆が面白がって拡散(リツイート)してしまうこともよくあると聞きます。と言いつつ、私も憶測で話したりすることもありません。そこで大事になってくるのは、思ったことをそのまま話

すのではなく、聞いた相手がどう思うか考えを巡らせてから話すことでしょうか。ツイッターには140字の制限がありますが、大幅に超えてしまいました。これからはもつと簡潔に思いやりの心も大切にしていこうかと。

心口各異

思ってもいないことを口にしてしまったと言いつつ、それって本心では？と思うことがよくあります。大物政治家がつい口走ってしまい、直ぐに撤回するも、後の祭りというやつです。最近ではオリンピックでの女性蔑視発言が記憶に新しいでしょうか。こういった失言で失職してしまう方もいますので、ほんと口って怖いですね。

大無量寿経に【心口各異 言念無実(ごんねんむじつ)】と説かれています。「心で思ったことと、口で発したことは、それぞれ異なり、そのどちらも誠実ではない。」ということですね。うーむ、深いですね。心で思ったことですから、誠実ではないと言っわけですから、よくよく考えてみますと、私たち

は、自分のことは分かっているようで案外分かっていないのかも知れません。私達の目は外に向かっていますから、他人の言動はよく見えますが、自分の言動はあまり見えていないのでしょうか。心は目に見えないものですから、自分の本心ですらよく分かっていないこともあると思います。自分のことすら分かっていないのですから、他人のことをどうこう言える立場ではないことを認め(自戒を込めて)、口(言葉)と心の違いに気づき、自分の心を見つめることで、本当の自分の心が見えてくるのかも知れません。ここで大切なのは、相手を思っている誠実なる心から来る口(言葉)を心がけることでしょうか。であれば、口と心が一致し、しかも誠実であることとなります。お釈迦様の言葉はこういったことに気づかせて頂く珠玉の言葉です。ぜひ皆様、何かと落ち着かないコロナ禍中ではあります。が、御仏(阿弥陀仏やご先祖様)の見守られる中、心穏やかに過ごしてください。見える世界が変わってくるかと思えます。

おおよいし 大谷石の劣化



※大谷石劣化の例

大谷石は、その風合いと加工のしやすさで、一時期墓地の枠等によく使われていました。しかし、吸水性が高い石種で雨水で濡れたら乾いたりを繰り返すと数十年という年数で表面劣化が始まり、ぼろぼろと表層から剥がれ落ちてくるようになります。実際、正山寺でも写真の様に表面が剥がれ落ちている墓地在り少なくありません。簡易的に保護剤を塗布して持たせる方法もあるようですが、抜本的な対策は雨水に強い材質(御影石やブロックなど)に交換する必要がありますが、おおよいしにもありません。大谷石を用いている墓地をお持ちの檀家様におかれましては、これ以上悪化させないためにも一度石材店等に相談されることをおすすめします。

書籍紹介



「天、共に在り」
中村哲著 (NHK出版)

著者のことは、NHKの再放送で知ったのですが、30年に渡るアフガニスタンでの壮絶なる診療活動、井戸掘り、25キロに及ぶ水路建設にその人生を捧げてこられた医師です。どのようないきさつ、思いでその活動に当たってきたのか、その活動に賛同し集ってきた若者たちの存在など知りたくなり読まずにおれません。現地の人々との交流、協力の下、命の源用水路を完成させ沙漠に緑田畑が蘇った写真を見ると感動せずにはおれません。そして、「私たちが己の分限を知り、誠実である限り、天の恵みと人のまごころは信頼に足る」という確信めいた言葉、皆様にもお伝えしたいと思い紹介させていただきます。本当に有り難い存在という他ありません。

ぼうもり※住職の妻 坊守のコラム

お寺での行事も中止が続き、お会いする機会が少なくなっております。皆さん、お変わりなく、お過ごしでしょうか？また少し息子の話しをさせて頂きます。最近、9歳になり、親鸞聖人が仏法の世界に入られた御年と同じになりました。このタイミングで、少しお経を勉強させようと、住職と私と息子で、お経を毎日読む時間を作っております。とは言っても、最初から喜んでやるはずもなく、目の前に人參をぶら下げること。今、一番食いつくのは、ゲーム時間の延長。1日45分という上限に、お経を読んだ時間分追加する約束に。本当は何かで釣るのは良くないことは分かっておりますが、効果抜群！ゲームの為ならと、毎日正座してお経タイムです。(笑)

子供の記憶力は羨ましいもので、お経を耳で覚えて暗記してしまします。時折、音楽のようにお経を口ずさみ、楽しんでる様子も。私は、お経に必死、正座の足の痺れにも苦戦中(苦笑)。息子に完

敗です。まあ、勝ち負けではないので頑張つてついて行こうと思つています。まだまだ人と接する機会を減らさざるを得ない世の中です。お経(正信偈など)を読むなどして、声を出す機会を増やしてみたいかがでしょうか。

あとがき

長きに渡るコロナ禍も、ワクチン接種という光明により終焉も見えてきました。ただ、感染者の多い若い方々への接種はこれからですので、まだまだ油断せずお過ごしください。今回坊守が触れた息子の話ですが、次回も続きがあるようです。どうなりますやら。

寺報「ほっ寺通信」第25号

浄土真宗東本願寺派 正山寺

住職：藤野慶正(発行責任者)
住所：〒194-0201 東京都町田市上小山田1-50-4
電話：042-797-1443
FAX：042-797-9233
URL：<http://shousan.net>
メール：info@shousan.net